

このスピーカー・システムは、手持ちの GAUSS 8842 8Ω 45cm アルニコユニット×4 を用いて最高のシステムを完成させたいとの思いで 10 年ほど前から製作しているシステムです。幾つかの難しい問題がありました。まずウーファーですが 8842 は 104 デシベルと能率が非常に高いので、これに繋げる MB が無い事です。GAUSS の 4282 は 99db で使用出来ません。色々と探したあげくに見つけたのが ALTEC の 912~8C107db。しかし問題なのは 8842 が 8Ω なのでパラ接続にすると 4Ω になり、さらに能率が高くなる。しかし 16Ω ではネットワークの設計が面倒になる。しかもパラ接続とシリーズ接続では圧倒的にパラの方が音の厚み、解像度も優れている。しかし問題は 4Ω ではネットワークが巨大化し、箱に部品が入りきれない。それらの理由で 2ch マルチでドライブすることに決定。となるとミットバスは GAUSS4282 でも良いのでは。しかし音色的には ALTEC の方が繋がりが良くクオリティとしても悪くない。それでこのユニットに決まりました。

この ALTEC についてもう少し説明すると、このユニットは 30cm コアキシャル型でセンターにマグネットが付いたドームトゥイーターが付いていて裏側には 2WAY のネットワークがついています。ネットワークとトゥイーターを取り除きウーファー部分だけを残して今回は用いる事にしました。次に問題となるのはチャンネルデバイターですが、スピーカーユニットの性能や音色を考えると 150Hz が最も繋がりがよいことがわかりました。しかし市販のチャンデバで音を悪くするのも考えもので、実際あまり良い結果が出なかった。それで友人でもある金町の仙人こと稲田氏にアクティブポリウム製のチャンデバの製作を依頼した。出来あがった 150Hz 2ch のチャンデバは想像以上に素晴らしいもので W、MB 間の位相も良く、あまり問題も無く決定する事が出来ました。スクーカーはもちろん HF4000 アルニコですがホーンは 8000M と同じ PHG8005M(監)を用いています。ホーンスロートアダプターは砲金製の特注品、トゥイーターは GAUSS1502 ですが、ホーンの部分を徹底的にデットイグしてあります。リード線も銀線にかえているクスオーバーは、MB~M 間は 500Hz M~T 間は 9.2KHz でベストの状態。

ここまでの作業で 4 年ほどかかりましたが、さらにネットワークのクロスポイントやクロスカーブなどいくつものテストを繰り返し現在に至っています。調整に一番時間がかかったのはバスレフ調整です。エンクロージャは 550L バスレフですが、米松合板にローズウッドの付き板仕上げです。センターの上方に MB の 150L のボックスがあります。箱のサイズは H890×W1220×D610。バスレフ fo は 28Hz です。45cmW ウーファーだとさぞ重い音に考えるかもしれませんが、驚くほどしまりの良い箱離れの良い音に仕上がっています。長い調整の中で一つ不満があったのは、弦の音がもう少ししなやかに鳴ってほしいという点でした。それで思い切ってスーパートゥイーターを加えることにしました。ユニットは Pioneer PT-R4 9K~100KHz。これに関しても専用のアンプを稲田氏に依頼し製作して頂いた。この効果は絶大で弦の音もしなやかに鳴り、現在では Jazz もクラシックも満足しています。